常態化する米軍パラシュート降下訓練に嚴重抗議する意見書

令和7年8月20日、基地周辺自治体及び議会が再三にわたり中止を求め中、米軍は嘉手納飛行場において、またもやパラシュート降下訓練を強行した。今年に入って4回目、令和5年12月から数えて14回目となる。訓練は午後4時24分頃に9人の降下を皮切りに、降下終了までに8回、約70人の兵士が米軍機から降下したと報道されている。

今回の訓練は当初午後11時までとされていたが、後に午後10時に変更された。嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置(平成8年3月28日合同委員会合意)では米軍の活動は運用上の必要がない限り午後10時までに制限されている。基地負担軽減を目的とした合同委員会合意事項を無視することは、許されない。

嘉手納飛行場は住民居住地に極めて近接し、操縦ミスや突風に煽られ住民居住地に着陸及び部品等が落下すれば重大な事故につながる。しかも今回は夜間降下を目的としており、また1個のパラシュートで複数人を降下させる等、回を重ねる毎に訓練がより危険なものへと変化してきている。嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は断じて容認できない。

そもそも同訓練は、伊江島補助飛行場で実施することが日米特別行動委員会(SACO)最終報告で合意されている。日本政府は「不定期」、「小規模」、「緊急の必要性」、「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認している。しかし、令和5年12月以降21カ月間に14回のパラシュート降下訓練が実施され、降下兵員総数は報道によれば約380名を超え、小規模とは言えず、かつ常態化している。

嘉手納飛行場においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着等の飛行訓練が繰り返され、パパーループ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われるなど、周辺住民は長年にわたり騒音被害など過重な基地負担を強いられている中、8月4日F15E戦闘機の車輪欠落事故が発生している。

このような状況下で実施された嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された「嘉手納基地における負担軽減」にも逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達している。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、常態化する嘉手納飛行場での米軍パラシュート降下訓練に対し嚴重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実施を強く要求する。

記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。
- 3 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年9月4日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官(沖縄基地負担軽減担当)

沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使(沖縄担当) 沖縄防衛局長 沖縄県知事

常態化する米軍パラシュート降下訓練に嚴重抗議する決議

令和7年8月20日、基地周辺自治体及び議会が再三にわたり中止を求める中、米軍は嘉手納飛行場において、またもやパラシュート降下訓練を強行した。今年に入って4回目、令和5年12月から数えて14回目となる。訓練は午後4時24分頃に9人の降下を皮切りに、降下終了までに8回、約70人の兵士が米軍機から降下したと報道されている。

今回の訓練は当初午後11時までとされていたが、後に午後10時に変更された。嘉手納飛行場における航空機騒音規制措置(平成8年3月28日合同委員会合意)では米軍の活動は運用上の必要がない限り午後10時までには制限されている。基地負担軽減を目的とした合同委員会合意事項を無視することは、許されない。

嘉手納飛行場は住民居住地に極めて近接し、操縦ミスや突風に煽られ住民居住地に着陸及び部品等が落下すれば重大な事故につながる。しかも今回は夜間降下を目的としており、また1個のパラシュートで複数人を降下させる等、回を重ねる毎に訓練がより危険なものへと変化してきている。嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は断じて容認できない。

そもそも同訓練は、伊江島補助飛行場で実施することが日米特別行動委員会(SACO)最終報告で合意されている。日本政府は「不定期」、「小規模」、「緊急の必要性」、「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認している。しかし、令和5年12月以降21カ月間に14回のパラシュート降下訓練が実施され、降下兵員総数は報道によれば約380名を超え、小規模とは言えず、かつ常態化している。

嘉手納飛行場においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着等の飛行訓練が繰り返され、パパープ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われるなど、周辺住民は長年にわたり騒音被害など過重な基地負担を強いられている中、8月4日F15E戦闘機の車輪欠落事故が発生している。

このような状況下で実施された嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は日米安全保障協議委員会の共同発表で確認された「嘉手納基地における負担軽減」にも逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達している。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、常態化する嘉手納飛行場での米軍パラシュート降下訓練に対し嚴重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実施を強く要求する。

記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。
- 3 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。

以上、決議する。

令和7年9月4日
沖縄県嘉手納町議会

(あて先)

駐日米国大使 太平洋空軍司令官 在日米軍司令官 在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事 嘉手納基地第18航空団司令官 沖縄県議会議長